

十島村宝島の「トカ
ウ観音三線会」は7日
宝島小中学校であった
「宝の夢文化祭」で
初めて演奏した。住民
ら約80人を前に、古く
から伝わる唄で、その
時の思いを即興で表現
し、人で掛け合う「ト
カウ観音三線」を披露し
た。

「歌い継がれてきた
伝統を次世代に残そ
う」と会は9月に発足。
教諭2人と住民5人
が、週1回の練習で磨
いてきた腕前を存分に
披露した。来場者から

は「唄者の掛け合いが
見事」「来年もぜひや
ってほしい」と好評だ
った。

唄者として参加した
平田伊佐美さん(右)は

海老原喜之助展きょうから 足跡伝える作品35点

郷土を代表する洋画
家、海老原喜之助(1
904〜70年)の作品
展が14〜20日、中央町
の「ギャラリーF」で
開かれる。リトグラフ



之助展。奥は孫の
町のギャラリーF

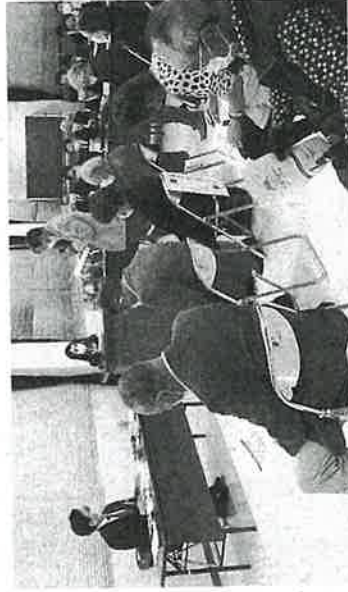
「若い時、飲ん方の時
は必ず歌うものだっ
た。昔を思い出し、心
に染み込めた。三線を担
当した前田昭利さん
(左)は「99番まである

が、今回は5番までや
った。高齢者が「懐か
しい」と喜んでくれて
うれしかったと話し
た。

(睦地文雄)

ギャラリーF

伊敷台中校区の課題訴え



下鶴隆央市長に意見を訴える参加者
＝鹿兒島市伊敷5丁目の伊敷公民館

市長と語る会

下鶴隆央鹿兒島市長
と住民が意見を交わす
「市長と語る会」がら
「とるための提案を寄
せてもらい、皆さんと
一緒に考えたい」と答

報道部・徳重里香

新型コロナウイルスのまん延
防止等重点措置が解除されて1カ
月。それなりに人通りが戻ってきた
夜の天文館だが、以前のにぎわい
は遠い。居酒屋の経営者らは口々に
「大人数のグループは居当たらず、
少人数化している」「予約客がほと
んどで、飛び込み客がない」「1次
会だけで済ますことが多い」と話
した。連れ立って街に繰り出し、「次
どこにする」と店を探し歩くよな

写真立てのフレームに大島紬の端材を
貼る園児
＝鹿兒島市真砂本町のバブリカ保育園



大島紬の端材 使い写真立て バブリカ保育園

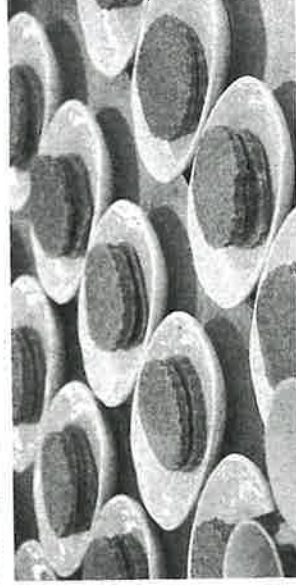
鹿兒島市のバブリカ
保育園(真砂本町)で
5日、大島紬の端材を
使った写真立て作りが
あった。木製のフレ
ームにのりを付け、ふり
かけを掛けるように
小さな手で大島紬をち
りはめた。23日の勤労
感謝の日に関親アプ
ゼントする。

「子供たちの親であ
る若い世代に、鹿兒島
の伝統工芸品を知って
ほしい」と園が初めて
企画。端材は、本場大
島紬の製造・販売など
を手掛ける大瀬商店が
無償提供した。

〇〜2歳児の18人が
参加し、一生懸命作り
上げた写真立てに笑顔
を見せた。小原由希園
長(35)は「傑作のレ
ミオミオや火山灰ア
ートなどに取り組ん
できた。今後も、鹿兒島
ならではの物を使っ
た取り組みをしたい」と
話した。

(睦地文雄)

茶葉使用どらや 給食 実習



あんと生地に黒糖べにふう
き紅茶を練り込んだどら
き

磯元さんによると、レシ
ド通りにフライパンで焼く
ことで、給食用に大量に作
った今回より、きれいな焼
き目がつく。「緑茶より和
紅茶に合う」という。レシ
ドは県茶生産協会ホーム
ページで公開している。

(有田佳織)

たのは、2年の磯元泰弥さ
ん。所属する学内サークル
のお茶研究会は、協会の

れた。1年の善福量彦さん
は「あんとは苦手だけど
紅茶の味が濃くておいしく
食べられた」と笑顔を見
せた。



ていふと「か、か、こ
いい」と話した。